

① 学習指導案

プログラム	No.08 「わたしたちのまちに言葉の贈りもの」
単元名 (全17時間)	残そう「上粕百景」
学習のねらい	上粕の「すてき！」を見つけ、友だちや地域の人たちに紹介しよう。
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 上粕のまちの好きな場所、残したい風景について話し合う。</li> <li>2 校内外を探検し、思わず心が動いた場面を撮影する。</li> <li>3 パネル発表を通して、上粕の「すてき！」を伝える。</li> <li>4 自他の発表から、上粕のよさを再発見し、それを伝える活動を通して、自分たちの住むまちのいいところを受け継いでいきたいという思いを持つ。</li> </ol>
参考資料	名刹、古刹の百景写真
準備品	タブレット、電子黒板、額縁、額縁ホルダー
実施場所等	上粕地域内、教室、パソコン教室




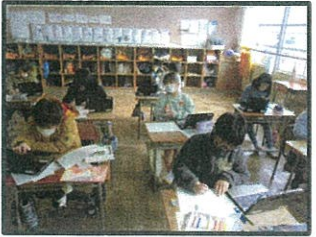
学習の流れ

時間	学習活動	教師の指導	評価
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習のめあてを持つ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動のイメージを持たせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・つくりたいもののイメージができたか。</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域めぐりをし、上粕のよいところを探す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全についての指導。</li> <li>・地域人材を活用し、校区にある文化財や施設について説明してもらう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上粕のまちの「すてき！」を見つけることができたか。</li> <li>・自分のおすすめしたい場所を見つけられたか。</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「すてき！」の場所を写真に撮る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットで撮影する際、対象物が引き立つように構図を考えさせる。</li> <li>・安全についての指導。</li> <li>・肖像権についての指導。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見る人に伝わるように、写真の撮り方や構図等を工夫することができたか。</li> </ul>
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パネルを作成し、紹介文を考える。</li> <li>・パソコンを使って、紹介文</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読み手や聞き手を意識した文章にさせる。</li> <li>・ローマ字入力の指導。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手に伝わる様な表現ができたか。</li> <li>・上粕のまちの「す</li> </ul>

	を作成する。	・写真の取り込み方の指導。	てき！」に気付く ことができたか。
--	--------	---------------	----------------------

② 事業実施報告書詳細

学校名 木津川市立上粕小学校

時間数	場所	概要	活動記録（写真）	対象者の反応
1	教室	目あてをつかむ		やってみたいという意欲がもてた。
4	校外	まちの好きな場所、残したい風景を見つけるために地域を歩く。（取材）	 	自分の知っているよいところをみんなに話したりしながら意欲的に活動した。 新しい発見もあったようだ。
5	教室	1学期からの町探検と合わせて振り返り、上粕のいいところ、残したいところを話し合い、選び出して、分担する。  いいところ、残したいところを絵札に描いて絵札をつくる。	 	良さがうまく伝わるよう工夫して絵を描こうとしていた。  カルタをつかって楽しんでもらいたいという目標があるので、みんな一生懸命考えながら描いていた。
5	教室	読み札をつくる その場所の良さが伝わるような読み札の言葉を考え、読み札をつくる。 ※児童が考えた読み札の文例をもとに、担当教員	読み札作り	簡単な言葉で、短い文章を書くに苦労していたが、子どもらしい感じ方の文章ができた。

1	教室	<p>が50音になるよう調整しながら、読み札文を完成させた。</p> <p>完成した読み札を読んで、実際にクラスでかるた大会をする。</p>	 <p>かるた大会</p> 	<p>できあがったとき、読み方を練習したり読みあったりするといったことを自主的に自然とやっていた。</p>
1	教室	<p>かるた大会をしたことも踏まえ、学習してよかったこと分かったことを話し合う。(振り返り)</p>	 	<p>自分の見つけたところがいいところだといってくれた。など、満足感を得た。</p> <p>自分たちがつくったかるたが本物のかるたになったので子どもたちは大喜びであった。</p> <p>「上粕にはいいところがいっぱいあるから」と地域に誇りを持てた子どもいた。</p>

### ③ 実施内容について

<p>(1) 実施にあたり工夫した点</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・意欲をもたせるために、かるた遊びを学習に入る前から行っておいた。</li><li>・教員から「上狛のいいところを教えて」と話題を提供したりして、意識化を図っていった。</li><li>・学習に入るまでの期間に上狛のよいところ残したいところを家で聞いて来るよう伝えておき、大人の思いに触れる機会をもたせる。</li></ul>
<p>(2) 実施にあたり苦労した点</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・かるたの読み札については、3年生児童にとって、文章は考えられるが、かるたとして50音の分をそろえることは大変難しい内容であった。</li><li>・児童の人数が少なく、50音すべてを作成できなかった。</li><li>・校外での活動の際に安全確保するための指導者の確保。</li><li>・かるたで遊ぶ経験が豊かでない児童への配慮。</li></ul>
<p>(3) 児童の反応</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・かるたは楽しいという経験を積ませていたので、やってみたいという意欲があった。</li><li>・子どもなりに、上狛のよいところが好きで、残したいと思っていることがよく分かる実践となった。</li><li>・カルタの文を作るときは、五・七・五などのリズムよい文章にしようとして一生懸命に考えていた。</li><li>・地域住民や保護者から、大変評判がよく、「いいのができたね」といってもらった子どもたちはうれしそうだった。</li></ul>
<p>(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・自分たちの住んでいる地域にどのようなものがあり、住民はその場所についてどのような思いをもっているのかについて理解が深まった。</li><li>・児童がどのような思いで読み札の言葉を考えたかを尋ねないと、読み札文の決定ができなかったため、児童の思いを尋ねいろいろと話すことで児童理解が深まった。</li></ul>
<p>(5) 今後の課題と取り組み〔児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等〕</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・かるたを作るという内容は、児童にとって大変意欲もわくし、完成時のイメージも持ちやすいものであるため、導入を工夫することで、もっと豊かに児童が発想し活動できると考える。</li><li>・かるたを作成した後の活用について、さらに工夫しておく必要があった。</li></ul>